

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 人間科学部心身健康科学科

名 前 鈴木 はる江

作成日 2023 年 9 月 15 日

1. 責務（何を行っているか、何を果たしているか）

人間科学部心身健康科学科では、コア科目の①ヒューマン－人間のこころとからだ、②ヒューマン－未来社会の幸福、③心身健康科学－こころとからだの健康科学、専門科目の④ヒトと人間の科学、⑤ストレスと健康、⑥内臓の調整のしくみ、⑦運動のしくみ、⑧高齢者のからだと健康、⑨ライフスタイルと健康、⑩心身相関の科学を担当。コア科目では人間のこころとからだの相関の基本を教授し、専門科目の④～⑩では人間理解の特に身体面と心身相関をより深く修得してもらい、学生各自がより良く生きる知恵を考えられることを目指して授業を行っています。

人間科学部健康栄養学科・ヘルスフードサイエンス学科および保健医療学部では①と③を教授し、本学の建学の精神である、人間をこころ・からだ・環境と社会の面から総合的に探究して、真に人間を理解することを目指して、各学部、学科で複数教員と協力して授業を展開しています。

大学院心身健康科学専攻では、必修科目の心身健康科学特講、心身健康科学特論Ⅰ、選択科目のストレス学特講、特別履修プログラムの健康情報計測学、ストレス評価学、健康支援演習、ストレスマネジメント演習を担当し、心身健康科学に関するより高度な知識や研究情報を教授しています。

教務委員会（人間科学部、大学院）、自己点検評価委員会、FD・SD推進委員会、アドミッション委員会（大学院）の委員もしくは委員長として、教職員と連携協力して、本学の教務に関する問題を改善して、学生が成長を実感できる教育プログラムの策定を推進しています。

2. 理念（教育に対する考え方）

コア科目の①～③は通信制、通学制の学生全員が学ぶ科目であり、本学の教育理念の自立と共生に直結する学修です。専門性が何であれ、人間としてより良く生きていくために必要な知恵を養い、学生が卒業後も本学での学びを生かして、自立し共生して社会で活躍していけることを念頭に、授業を行っています。

専門科目①～⑩では、人間のこころと身体の仕組みやその相関関係をより深く学ぶことにより、学生自身で自身の生活を振り返って健康的に生きていく方策を考えられることを目指しています。さらには本学の学修で培ったコミュニケーション力を活かして、より良く生きる知恵を家族や周囲の人々にも伝え、社会全体の健康保持増進に寄与して欲しいと願っています。

3. 方法（教育方法において大切にしていること）

心身健康科学科のディプロマポリシーである「こころ、からだ、環境・社会の統合的・学際的な知識を持ち、心身ともに健康で豊かに暮らせる社会の構築に寄与する能力」へと発展させるために、特に肝となる心身相関の仕組みについて、様々な背景や経歴の学生が理解できるように、具体例を挙げながらみ砕いて説明しています。また積極的に健康へ働きかける方策のヒントになる研究例なども紹介し、学修成果を各自の生活改善に生かせるような情報を伝えています。

心身健康科学、人間科学の理解は、通学制の各学科・各学部の学生が卒業後に医療・保健分野の専門職として活躍していくためにも必要な知識です。これらの科目は統合的・学際的学問であり、各学科、学部、大学院の教員と協力して展開している特徴があります。本学の全ての学生が、人間総合科学大学で学んだことを誇りと自信をもって巣立っていけるように、教員間の協力・情報共有を大切に教育を行っています。

4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

心身健康科学科においては、テキスト履修とインターネット履修が平行してある科目については、インターネット履修でテキストの重要ポイントを伝えるだけでなく、テキストの理解を促す関連情報も伝えており、興味をもって学んで頂いています。またスクーリング履修では、実際に自分の身体を動かして身体の仕組みを理解するなど、体験学習を取り入れています。体験学習は学生から評価いただき、継続していく予定です。今後は、学生間・学生と教員間の意見交換の場を増やして、学生同士励ましあって学修を継続できる環境づくりに留意していきたいと思います。

通学制の学科・学部においては、各専門科目の学修とともに心身健康科学による心身相関の理解、ヒューマンによる人間理解という総合的・学際的学問を修得することは、人間を対象とした職業につく学生にとって大事な内容であることを伝えていきます。心身健康科学やヒューマンで学修したことが、将来の職業でどう生かしていけるか、学生ディスカッションを通じて深めており、それが提出レポートでも明確に表現されており、学修成果が年々上がってきています。

5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

2020年3月に定年退職し、1年ごとの契約社員もあと1年で修了するので、自身の短期目標を述べます。学生が自分自身で学修成果を実感できるようにループリックの活用を通信制の学生に周知させていくこと、アクティブラーニングの手法をインターネット授業にどのように取り入れるか、検討していくこと、の2点です。

担当科目について、教務委員長、学部長と相談して、継続か廃止かの方針を決めていただき、継続の科目については、後身の教員に円滑に引き継いでいきたいと思っています。

＊ 表紙を含め、全体として、3～10ページ程度とします。

【添付資料】

- ＊ TPの記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙ください。
(シラバス、開発教材、学生アンケート等、特に特徴的なものを列挙し、必要に応じて、すぐに確認できるようにしておきます。)